

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：34106

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K01712

研究課題名（和文）ブラジルにおける格闘技の意義 ～格闘技観、教育観、娯楽観～

研究課題名（英文）aiueo

研究代表者

菱田 慶文（HISHIDA, YOSHIFUMI）

四日市看護医療大学・地域研究機構 地域研究センター・研究員

研究者番号：60625862

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：ブラジルは、様々な格闘技が教育的な手段として考えられている。ソーシャル・プロジェクトとして、貧困層には、無償で様々な格闘技を教えられていた。本研究では、柔道、ブラジリアン柔術、総合格闘技を調査した。その目的は、貧困層の子ども達を犯罪から遠ざけ、希望を与える為である。特に柔道は、日系移民の教育目的とされ普及したが、現在ではブラジルの全土にまで認められる教育的な手段として認められ、NGOとして活動している団体もある。リオ・オリンピックで金メダルを取得する選手も現れるほどソーシャル・プロジェクトが成功している、と言えるだろう。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、貧富の激しく犯罪が多発するブラジルにおける格闘技の意義を研究するものであった。ブラジルの貧困層は、少年少女が将来に希望が持てない現実がある。そのようなブラジルで格闘技は、礼節を学び心身を鍛える手段として捉えられていた。特に柔道では、礼節だけでなく基礎学力を身に付けさせるプロジェクトも行っていた。本研究は、貧富の格差が大きい社会が到来した時にこそ、大きな意義を持つ研究である。格闘技が単なるスポーツではなく、礼節を身に付け、強く生きる為の手段となっているのが分かるためである。

研究成果の概要（英文）：Various martial arts is considered by Brazil as the educational means. You were telling the martial arts without charge and various to poor people as a social project. Judo, Brazilian jujutsu and overall martial arts were investigated by this research. The purpose is poor people's children are avoided from a crime, and to give hope. You did judo with Japanese affiliated immigrant's educational purpose in particular, and it spread, but there is also a group which is admitted as the educational intermediary that even Brazilian whole can admit and is coming into action as nongovernmental organization present. It can probably be said that a social project is so successful in Rio Olympics that the player who acquires a gold medal appears, too.

研究分野：スポーツ人類学

キーワード：柔道 ブラジリアン柔術 総合格闘技 ソーシャル・プロジェクト ファベイラ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

柔道は、日系移民が伝えたスポーツであり、現在、約 200 万人の競技人口があると言われている。そのような柔道を改良し、生まれたものがブラジリアン柔術(BJJ)である。この BJJ の実践者には比較的富裕層が多いと日本の格闘技情報誌では報道されている。また、バーリウド(MMA)は、ブラジルにおいて多様な格闘技が混浴した結果、生まれた総合格闘技であり、比較的安価に始められるためブラジルでは人気があるとの報道もある。こうした性質の異なる3つの格闘技が、現在のブラジル社会や人々とのような関係にあるのかを紐解くことは、ブラジルにおける格闘技の位置づけと意義を見出すとともに、ブラジル社会の現在の住民の生活指向(格闘技観、教育観、娯楽観)を提示することにもつながると考えた。また、ブラジルは、16 世紀からポルトガル人によって開拓され、移民を受け入れることで、人々が混血しながら発展した多人種・多民族国家である。1888 年の奴隷制廃止以降もその歴史が国民の人種構成と社会的階層、貧富の程度に影響しているといわれている。それらの社会的要因が格闘技の選択に、どのように影響しているのか、を明らかにしたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究では、ブラジルにおける格闘技の意義を研究するものである。ブラジルは、開拓により開かれた国家である為、様々な人種・民族が存在し、混血も進んでいる。その為、格闘技も様々な地域の文化の影響を受けている。本研究で明らかにしたいことは、以下の3点である。ブラジルにおける格闘技の位置づけと社会的役割を明らかにする。ブラジルにおける格闘技観、教育観、娯楽観を明らかにする。ブラジリアン柔術の日本の柔道の影響と発生理由を明らかにする。

3. 研究の方法

調査地は、サンパウロ、リオデジャネイロ、クリチバで行った。1) 調査地の格闘技の捉え方、総合格闘技(VT、ルタリープリ)及び、カポエイラ、BJJ の現状に関して、文献調査及びそれぞれの格闘技関係者へのインタビュー調査を実施した。2) 調査地の人々の格闘技観、教育観、娯楽観を明らかにする為に、参与観察をした。文献調査においては、日系移民に残る活字資料や日本人移民の記録、また、BJJ については、英語文献、ポルトガル語文献、報道記事等の他、日本の BJJ の情報誌も資料に用いた。調査地の格闘技の捉え方に関する基礎事情を収集・調査するためである。収集した情報を調査地滞在期間中及び現地調査帰国後に分析し、調査地における格闘技の基礎資料とした。次に、インタビュー調査である。調査地有識者から紹介を得て、総合格闘技の道場及び、BJJ のジムにおいて、道場主宰者及びジム主宰者を中心にインタビュー調査を実施した。総合格闘技に関しては、道場主宰者及び総合格闘技の興行の開催者を中心にその由来と現在の状況についてインタビューを行った。BJJ に関しても同様に、道場主宰者及び実習者を中心にインタビューを行った。

4. 研究成果

1 ブラジルにおける格闘技の位置づけと教育観に関して

ブラジル講道館有段者会、金メダリスト・BJJジム主催者複数名・総合格闘技ジム主催者及び選手にインタビューを行った。柔道に関して、篠原正夫氏(講道館十段94歳)、岡野脩平氏(ブラジル講道館名誉会長80歳)、関根隆範氏(ブラジル講道館会長77歳)、石井千秋氏(ミュンヘンオリンピック銅メダリスト77歳)にインタビューを行った。最高齢でブラジル柔道草創期を知る篠原正夫氏は、「日本の武道は認められない時代に柔道に出逢った」と語る。剣道をはじめとした武道をしていると逮捕される時代であったと言う。そのような苦難の戦時中の時代を乗り越え、徐々に柔道が理解される時代が来たのである。ブラジル講道館の岡野脩平氏と関根隆範氏は、ブラジル人が「日本人の勤勉さ正直さ、礼儀正しさという武士道を愛し、柔道人口が約200万人に増えた」と理由であると戦後の柔道の普及を語った。次に

石井千秋氏は、ミュンヘンオリンピックでブラジルに帰化し、ブラジル人として銅メダルを取得している。石井氏は、柔道が1972年頃からブームになり、女子は80年代後半から急速に柔道人口が増えはじめた、と語っている。

このようなブラジルにおける柔道は、教育としての側面を大切にしている。柔道によるソーシャル・プロジェクトなどである。このソーシャル・プロジェクトによる顕著な成功の一例が、リオデジャネイロ・オリンピックで金メダルを獲得したラファエラ・シルバ選手である。このソーシャル・プロジェクトは、柔道の礼儀作法だけでなく、基礎的な学力なども教育しているのが特徴である。

BJJに関しては、リオデジャネイロにあるコパカパーナビーチ付近にあるミドルクラス以上が集まるBJJジムは、子どもの礼儀作法の習得の他、身体訓練などを教育の目標に挙げていた。また、富裕層の護身術であったBJJも近年では、貧民窟(ファベイラ)などでも教育的な手段として教授されていることが明らかになった。ファベイラは、ブラジルの貧民窟であり、犯罪多発地域として知られている。そのファベイラでも行われているBJJは、ソーシャル・プロジェクトとして無償で行われており、政府の援助などはなく、個人的な善意で、貧しい子ども達に教えているのである。彼らは、BJJを貧しい子ども達に教えることで、犯罪から子ども達を遠ざけ、未来に希望を持たせたいと語っている。

総合格闘技に関して、ブラジルは、パーリトゥドという何でもありの格闘技が盛んであり、世界で活躍する選手を輩出している。彼らもBJJのように、個人的なソーシャル・プロジェクトとして貧困層への教育活動を行っている。パラナ州クリチバで総合格闘技ジムを主宰しているフジマール・フェデリコ氏は、金銭的に苦しい少年でも、総合格闘技を学べるようにしているという。その代わりに、プロ選手として活躍しはじめたら、マネジメント料をもらうというシステムを作っていると語る。

総合格闘技の強豪として知られるパンダレイ・シウバ氏は、「格闘技を学校教育に導入したい」という希望から、2018年にパラナ州連邦下院議員選挙に立候補し、落選している。彼は、格闘技の意義を次のように説明した。「格闘技をすると、礼儀を覚える。有り余ったエネルギーを格闘技に向かわせることができる。試合をすることで、さらに人生を学ぶ」と言っている。(中略)試合の日が決まって、対戦相手が決まって、その対策を考えること、試合会場に向かうこと、すべてが教育になる。それらがすべて教育になる」と語った。

2 ブラジリアン柔術の日本の柔道の影響と発生理由を明らかにすることに関して

ブラジリアン柔術(以下、BJJと記述)は、講道館柔道の猛者であった前田光世(コンデ・コマ)が南米武者修行中に出逢ったスコットランド系移民の 그레이シー 家に伝えた柔道が現地で改良され、ブラジリアン柔術として誕生したものである²。現在のBJJは立技よりグラウンドポジションでの攻防(寝技)が主体として行われ、ギブアップとポイントにより勝敗がつくルールとなっている。さらに、道着を着用するルールと“NOGI”という着用しないルールに類別される。

BJJの研究者であるホセによると、BJJは、 그레이シー 家によって、富裕層に護身術として普及していた経緯があり³、1993年コロラド州のデンバーにおいて行われたUFC⁴において優勝したホイス・ 그레이シー の活躍によりBJJの実戦性が世界的に認知され、世界中にBJJが普及するきっかけになったという⁵。また、BJJは、講道館柔道の猛者であった前田光世が 그레이シー 家に伝えたものだけではなく、他のブラジル人が伝承したBJJも存在した。BJJは、 그레이シー 家とは、反対の路線すなわち、富裕層ではない貧困層を中心に普及していった経緯があった。リオデジャネイロの北部の貧困地域でオスワルド・ファダ氏が普及していったBJJである。現在、ファダ柔術として受け継がれている。オスワルドは2005年に亡くなるが、現在もリオデジャネイロ市北部にファダ柔術の本部道場があり、ゲッチ師範(ルイス・カルロス・ゲッチ・デ・カストロ)を中心に普及活動が展開されている。現在の社会貢献活動としては、主に貧困層の子どもを対象に、無償で柔術クラスを実施しており、ゲッチ師範の門下生や息子らも中心となり尽力

していることが明らかになった。

また、90年代には、ファダ柔術だけでなく柔道出身者がBJJに合流していることが明らかになった。その頃のBJJルールは、まだ現在のように明確に決まっていなかったとも言う語りが得られた。柔道の強豪からBJJに転向したバルボーザ氏は、「柔道家として厳しい身体訓練をしてきた。スタミナもパワーもあったが、寝技では、柔術家にまったく勝てなかった」と語っている。その為に、本格的に寝技を学ぶために、柔術に転向したという。また、「CBJJ(ブラジリアン柔術連盟)ができたばかりの頃は、ある時は、カカト極めちゃだめ。でもある時は、良かったりもした。バスターも良かったり、悪かったりした。まだ、はっきりルールが決まっていなかったのです。」と語る。90年代は、ルールが明確になっておらず、試行錯誤しながら、柔道出身者やグレイシー家を經由しない柔術が合流し、現在のブラジリアン柔術の組織作りやルールの構築が行われたとみられる。

まとめ

ブラジルは、貧富の差が激しく、犯罪事件が多発する国である。そのようなブラジルにおいて、格闘技はどのような意味を持つのか、知るのが本調査の発端であった。本調査のフィールドワークやインタビューの内容を上記で述べた。ブラジルは、格闘技が盛んな国である。アフリカが起源のカポエイラの他、柔道の人口は約200万人と推定されている上、ブラジリアン柔術発祥の地でもある。さらに、世界のMMA(総合格闘技)の興行は、いつもブラジル人選手が世界を注目させる実力を持っている。

まず、初めに日系人が普及した柔道がブラジルの格闘技文化に強く影響を与えたと言えるだろう。柔道を伝えてきた日系移民の柔道指導者達は、礼儀や規律を守る等などの道徳を大切にしながら普及したのが、現在のブラジルにおける柔道の評価や競技人口の多さにつながっているといえよう。総合格闘技に関してもプロ選手を輩出するようなジムも貧困層の子ども達に、ソーシャル・プロジェクトを行っていた。プロ興行のトップ戦線で闘う選手も「格闘技は教育になる」と語っている。その理由は、自らの身体を鍛えることで自信を身に付け、自分のエネルギーを良い方向に向かわせること等の利点を挙げていた。

柔道を寝技主体の格闘技に改良され、普及したのが前田光世から教えを引き継いだBJJである。BJJの普及初期には、グレイシー家が富裕層の護身術として普及していたが、現在は、貧困層にも指導する個人的なソーシャル・プロジェクトも行われるようになった。さらに、貧困層を中心に浸透したファダ柔術や多くの柔道家との交流からBJJの組織化が進んでいる。

¹ 2019年10月30日没 ニッケイ新聞 <https://www.nikkeishimbun.jp/2019/191031-76colonia.html>

² Jose Cairus 「The Gracie Clan and the Making of Brazilian Jiu-Jitsu: National Identity, Culture and Performance, 1905 - 2003 」2012 P92

³ 同上 P104

⁴ アルティメトファイティングチャンピオンシップの略 目つぶし、急所攻撃、噛みつき以外は、認められる総合格闘技

⁵ Jose Cairus 「The Gracie Clan and the Making of Brazilian Jiu-Jitsu: National Identity, Culture and Performance, 1905 - 2003 」2012 P205

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 菱田慶文 細谷洋子 中嶋哲也
2. 発表標題 ブラジルにおける格闘技の意義 ソーシャルプロジェクトの観点から
3. 学会等名 第20日本スポーツ人類学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 細谷洋子 菱田慶文 中嶋哲也
2. 発表標題 リオデジャネイロ市北部地区「スプービオ」におけるファダ柔術
3. 学会等名 第20回日本スポーツ人類学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菱田慶文 細谷洋子 中嶋哲也
2. 発表標題 ブラジルにおける格闘技
3. 学会等名 日本スポーツ人類学会 第19回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中嶋 哲也 (nakajima tetsuya) (30613921)	茨城大学・教育学部・准教授 (12101)	

